



胆石症について

外科副部長 湯澤 浩之

11月より当院に赴任しました外科（消化器外科）の湯澤浩之です。私は胃がん・大腸がんなどの消化器がんや胆石・虫垂炎などの消化器良性疾患の外科診療（手術）を担当しております。今回は、胆石についてお話をさせていただきます。

胆石症とは

胆のうや胆管に結石（石）ができる病気です。胆石症の中では、胆のう結石症が最も多く、胆石全体の80%を占めています。日本人の胆のう結石保有率は最近上昇傾向で、40歳代8%、60歳代15%、80歳代20%と言われ、食事内容の変化、特に脂肪摂取量の増加と食物繊維摂取量の減少が胆石保有率の上昇と関連していると推測されています。

胆のうは

右季肋部（右側の一番下の肋骨の少し下）にある、いちじく程の大きさの袋です。胆のうに石ができると、胆のうが腫れたり炎症を起こしたりして、症状がでます。胆のう結石の症状は、食後の上腹部痛、右季肋部痛、吐き気、発熱（胆のう炎があるとき）などですが、石は95%以上の確率で診断がつきます。上記の症状があれば、早めに病院を受診して超音波検査を受けて下さい。ただし、胆のう結石がある人々の約50%は無症状ですが、年月の経過によって症状が現れることもあります。

無症状の胆のう結石は

治療せずに経過観察するのが普通です。症状がある場合や胆のう炎を起こしている場合などは、石を含む胆のうを取る手術を行うのが一般的です。標準的な手術方法は、腹腔鏡下胆のう摘出術です。これは、腹腔鏡という直径5mm長さ30cmほどのカメラでお腹の中を見ながら行う手術で、お腹には5mm～1cmほどの小さな傷が4ヶ所できるだけですので、術後の傷の痛みが少なく早く退院できます。ただし、胆のうの炎症がひどい場合や以前にお腹の手術をされていたりしてお腹の中の癒着が強い場合など病状によっては、昔から行われてきた10～15cmほどお腹を切る開腹胆のう摘出術を行う場合もあります。なお、胆のうの役目は肝臓で作られた胆汁という消化液を一時的にためておくことなので、手術で胆のうを取っても体に悪影響がでることはほとんどありません。

胆石が胆管という管に出来たり、胆のう結石が胆管の中に落下した状態の胆管結石症については、最近では内視鏡（胃カメラ）で石を取れることが多くなりました。胆管結石の詳細については、紙面の関係で省略します。

「認定看護師の活動」

(社)日本看護協会認定

摂食・嚥下障害看護認定看護師 森田しおり

摂食・嚥下障害看護認定看護師の森田です。6ヶ月の研修を受け、平成18年7月に摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格を取得しました。「摂食・嚥下障害」とは、脳血管疾患や神経・筋疾患に伴う障害、加齢による影響などにより、飲み込みに関する機能が障害された状態です。食べることは、生命活動のためのエネルギー源です。しかし、人間らしく食べるということは、単に必要な栄養が補給されればよいということではありません。おいしいと味わう、家族で食事をする、季節のものを食べるなど「おいしいものを楽しく食べる」という情緒的感情は幸福感や満足感などを得て、生活をより豊かなものにします。健康な時は、食べるという行為は当たり前機能であるだけに、「食べたいのに食べられない」という苦しみは重大です。

私が、嚥下障害の患者様に出会ったのは、訪問看護師として関わっているときでした。何年も関わっている間に、経管栄養を選択せざるを得ない状況になる患者様をみてきました。入院中の重篤な時期を乗り越え、回復の段階に進んだ人にとって、口から食べるチャンスはないのか、また食べれるようになっていただくには、どうしたらいいのかと悩んで試行錯誤をしていました。ベッドから体を起こすことや口の中をきれいにすることから始め、2ヶ月ぶりに嚥下機能を再獲得でき、患者様がスプーンを持ってヨーグルトを食べる姿を見たときは、患者様や家族と一緒に手を取り合って喜びました。

しかし、疾患や回復過程で「口から食べる」ことのみがベストというわけではなく、身体的状況や社会的状況を加味した上で個別性が重要なことは言うまでもありません。経管栄養（管を胃まで入れて栄養補給をする方法）でなければ生きられない人もいますし、経管栄養と口から食べることの併用という方法も、欠くことのできない有効な栄養補給です。

嚥下障害看護は、入院中、最も身近で援助を行っている看護師が、早期から日常生活の中で嚥下機能の評価や訓練を行い、飲み込む機能の維持や回復、また嚥下障害の可能性を考えた安全な援助を目指しています。医師、看護師、言語聴覚士、理学療法士、歯科衛生士などの専門職との協働により、患者さまが健康回復へ向かおうとしている可能性を引き出し、働きかけ、最大限のよりよい環境づくりに徹していきたいと考えています。少しでも医療・介護現場でお役に立ち、健康や豊かな生活に力を添えることができれば幸いです。何かお困りのことがあれば、気軽にご相談下さい。



12月 お知らせ

■糖尿病教室 ※糖尿病が気になる方はどなたでも気軽にご参加ください。

◎毎週水、金曜日 5階病棟ダイールームにて 午後1時～2時

尚、都合により日時等変更する場合がございますのでご了承ください。



交通のご案内

新幹線羽島駅 — 西笠松 — 松波総合病院

松波総合病院
〒501-8501 松波町1-1-1

タクシー20分

名鉄岐阜駅 — 西笠松 — 松波総合病院

松波総合病院
〒501-8501 松波町1-1-1

タクシー15分

名鉄名古屋駅 — 笠松 — 松波総合病院

松波総合病院
〒501-8501 松波町1-1-1

タクシー15分